



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 門間孝一／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

東北復興支援集会
in 宮古



がんばろう東北! がんばろう宮古!

岩手県宮古市で 復興支援集会を開催

平成25年4月23日、24日、岩手県宮古市グリーンピア三陸みやこを主会場に「全消協・自治労東北復興支援集会」が開催され、全国から約300人の仲間が参加しました。開催に先立ち東日本大震災で亡くなった方々の御霊に對し黙とうを捧げました。

はじめに迫大助会長から、「東日本大震災により私たちの仲間である消防職員が岩手県内で27人、宮古市で4人が殉職しました。全消協活動として弔意訪問をするなかで、ぜひ住民の皆さん、そして地域のために何かできないかというところで集会の開催を議論し、今日に至りました。今日これから、新しい復興支援が始まると確信します。多くの来賓の方々から貴重なお話を頂けることになっていきます。ぜひ地元単協に持ち帰り、フィードバックしてください。最近、新聞紙上に取り上げられている職場体質の問題について、奈良県、山梨県で発覚したいずれの問

題も消防職員の人権を無視した消防当局の暴挙といっても過言ではなく、絶対に許されるものではありません。共通しているところは両者とも協議会をもたない未組織職場で一方的にやられているという現状があります。今回の集会ではこの部分についても議論していく必要がある」と提起し、最後に「がんばろう東北」「がんばろう宮古」と力強いあいさつがあった。

来賓のあいさつ

自治労岩手県本部 齋藤健市委員長 制度や仕組みの制約で 復興が進まず

開催県を代表して、力強いあいさつがありました。

「3・11から2年が経過しました。震災直後から皆さまには緊急消防援助隊として支援いただき本当に感謝いたします。本当にありがとうございます。皆さまはこの地に訪れる際、道すがらに被災状況

先月、職場に職員の訃報が届いた。四十二歳の消防士。勤務日の朝、家族が布団の中で意識がない彼を発見し、119通報したが、彼は家族を残したまま帰らぬ人となった。死因は急性心筋梗塞。前日から体調不良を訴え、いつもより早く就寝したことである。早すぎる「死」である。



以前読んだアメリカの医学ジャーナル紙に消防士の心疾患による死亡について注目されているの記事が掲載されていた。業務中の消防士の死亡の四十五%が心血管イベント、冠動脈疾患によるものであるとのことだ。警察官、医療従事者と比較しても突出した数字であった。

身体運動、緊急性、危険な業務などといった要因は決して消防士に限定されたものではない。警察、兵隊、他の職業でも共通している。しかしながら、煙・化学的な暴露といった因子、身体運動、重い装備・器具、熱ストレス、シフト労働など心理的ストレスが日常的・恒常的に関与しているのが原因であるとのことであった。

このことはアメリカの消防士だけに限定されるものなのか。日本の消防職場の現実ではないのか。

ここに全消協の存在と意義がある。今まで闘ってきた歴史がある。今一度、労働安全衛生法を穿心、消防職場の改善に目を向けようではないか。定年まで「健康」で働ける職場づくり、定年後も家族と「老後」を楽しめる職場環境づくりが目標である協議会。

ユース世代の会員の皆さん、協議会の歴史を学び、考え、共に闘いましょう。
岩本展政(中国フロック幹事)



復興状況をご覧いただいたと思います。行政として精一杯がんばっているわけですが様々な制度や仕組みの中で被災者にとっては全然進んでいない、じれったいという思いがあることも事実です。自治労本部として信の復興の日まで心を寄せあい、ともに歩み続けていきます。引き続きのご支援をよろしくお願ひします。この震災で宮古市でも4人の消防職員が殉職しました。住民の命を守るために犠牲なることはあつてはならないことで、消防職員の命を守らなから住民の命を守る姿が本来です。残念ながら岩手県内に消協がありません。この集いを期に一つでも組織化できるよう働きかけていきます。消防職員をはじめ自治体で働く職員の労働条件は厳しい

宮古市 山本正徳市長
**震災を教訓に
地域防災計画を見直し**

開催者を代表して、歓迎とお礼のあいさつがありました。
「本集いが復興支援を目的に投資で開催されるにあたり、宮古市民を代表し心から歓迎するとともに厚くお礼申し上げます。多くの犠牲者を出した東日本大震災から2年1カ月が過ぎました。震災直後、全国各地から消防、警察、自衛隊、海上保安庁など多くの皆様に応援をいただきました。特に消防では、県内応援隊が当日から、翌朝には秋田県隊、横浜市消防局から緊急消防援助隊が到着し、人命救助、救急支援など多岐にわたる活動いただきました。4月9日までの約1カ月間で2800人余りの消防関係者の方々にご支援いただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。この震災で多くの消防職団員が避難誘導中や救急活動中に被災し亡くなられてしまいました。この教訓をふまえ宮古市では地域防災計画の見直しを図り水門の閉鎖作業、住民の避難誘導等の活動は、津波到達予定時刻の10分前までとし、それ以降は高台の安全な場所に避難する開始基

準を明確化しました。また、今後は消防職団員の安全確保のために竹刀の水門閉鎖遠隔機能を進めるなどハード面、ソフト面ともに整備していきます。いまだ被災された方々が仮設住宅での生活を強いられている現状にあり、官民一体となり更なる復興に向けて邁進していきます。今後とも皆様のご協力、応援をよろしくお願ひします」

**宮古地区広域行政組合消防本部
野沢浩二 消防長**

**消防は地域住民の負託に
応えられるよう日々精進を**

地元消防本部を代表してあいさつがありました。
「日ごろから皆さま方はそれぞれの地域で住民の安心安全を守るために日夜、消防防災活動にご尽力されていることに対し、同じ消防防災に携わる人間として敬意と謝を申し上げます。我々消防の任務は災害から住民の生命、身体、財産を守ることでありますが、その災害がいつ起こるか分かりません。東日本大震災では宮古市でも津波により大きな被害をうけました。その際、全国の皆さま方から多くのご支援をいただきましたことにお礼申し上げます。災害発生後、我々が持っている消防力では対応できないため、県内応援、緊急消防援助隊の要請を行いました。応援を受けている中で感じたこと



は、同じ消防といつても市町村消防であるため身分、勤務条件、条例も違う中でいざ寄せ集めの部隊であるにも関わらず、部隊活動がスムーズにできたことです。これは消防が地域住民と密接に関わり、地域に密着した消防行政をしているからこそだと感じました。われわれ消防職員は各種災害から住民の生命を守るといふ崇高な使命感をもっており、組織の中における自己の立場を自覚し職員ひとりひとりが組織の一員としてひたむきに努力しているからです。震災以降、住民の安心安全に対する関心とわれわれ消防に対する期待は以前にも増して高まっています。皆さま方には消防職員としての職責を果たし、住民の期待の応えられるよう日々の精進をお願ひします」

◆全消協ユース部アンケート中間報告

第35回全消協定期総会の際において承認され、発足した全消協ユース部も間もなく1期2年の任を終えます。発足に伴い、全消協ユース部の活動とはどうあるべきか、また何をすべきなのかを各ブロックユース代表9名で検討してまいりました。

まず、ユース世代の活動強化を主な活動の柱として発足しましたので、最初にユース世代が協議会活動についてどう考えているのかを知るべき必要があると考え、アンケートを実施いたしました。

- ①協議会とはどんな組織知っているか。
- ②今後役員として活動していきたいか。
- ③何を学習したいと考えているか。
- ④協議会(全消協ユース部含む)に何を望んでいるか。

以上4点であります。現在集計及び分析を行っておりませんが、中間報告といたしまして、地域、ブロックごとに差はあれ、①については理解しているようでした。しかし、②のテーマでは、9割弱のユース世代会員は役員をたくないと回答しています。この事実は継続的な活動を続けていく上で非常に厳しい課題として浮かび上がりました。また③にあつてはかなりの地域差が出ています。傾向として、ブロック内組織数が多い地域ほどユース世代会員も役員になることに対して肯定

的な意見が多く、ブロック内組織数が少ない地域ほど、役員になることに対して否定的な意見が見受けられました。

③では賞金に関して学びたいという意見が群を抜いており、続いて若く、また現場職員が多いためか警防救助・救急に関して学びたいという意見を多く見受けられました。更に、勤務体系や資格取得についても多くの意見が寄せられました。

最後に④の協議会に何を望むかについては、全消協に対しても、全消協ユース部に対しても、更に各単協に対しても非常に厳しい意見が多く見受けられ、現状の厳しさを実感しております。また、このままでは継続的な活動は非常に厳しいと考えられます。

職員の高齢化に伴い、各単協発足の活動家も退職等を迎えております。現在のユース世代会員の今の身分保障、賃金等は先達の活動家たちのおかげであることをユース世代の多くは理解していないように感じます。また、協議会の歴史をうまく伝えられていないようにも感じとられます。

正式な報告は後日会員の皆様に報告いたしますが、ユース世代の強化は全消協、各ブロック、各単協共に大きな課題であり、協力して取り組む必要があります。今後とも各単協のご協力を得ながら、共に活動していきたいと思っておりますので、団結よろしくお願ひいたします。

2013年4月23日～24日
東北復興支援集会 アンケート(抜粋)

第一部

1 各種報告について

(1) 竹花市議

- ・地震発生直後からの現地での生の様子をお聞きすることができて本当に良かった。消防団の必要性、大切さを身にしみて感じた。
- ・本当に言葉では表せないほどに大変だったと思います。これからも復興のために頑張ってください。
- ・被災した方の話はニュース等の情報以外にも思いや苦悩があること伝わってきた。
- ・復旧ではなく新しい町を作らなくてはいけないという言葉がすごかった。
- ・地域防災計画における津波到達予定時刻の10分前の明文化

(2) 小林蒼鷹

- ・救急隊員が殉職したという生の言葉はショックでした。
- ・震災の津波が自身の運命を大きく変えてしまったこと、それに屈せず立ち向かおうとする決意を感じた。
- ・退職したくてもできないというメンタル、そのことを乗り越えて頑張る前を向いて生きていることに感動しました。
- ・法に基づいて活動するだけでは、住民の期待に応えられない。
- ・困っている人を助けることが、消防の原点だと改めて感じました。

(3) 木津会長

- ・同じ消防職員として共感でき、目指す気持ちは一つだと改めて感じました。

第二部

2 東日本大震災の教訓(久保前長官)

- ・みんなが「何かした」という思いでいっぱいなんだと思いました。
- ・「お詫びに来ました」という言葉がとても印象に残っています。消防人としての無念さが痛いほどわかりました。
- ・自分も活動時間が少なかったことから同じ気持ちだったことを思い出ししました。
- ・木津会長の歯がゆかった気持ちが印象的でした。私も何かできないかと考えます。

3 東日本大震災の教訓(久保前長官)

- ・福島第一原発における消防の対応等、緊急消防援助隊を要請するときの心境が聞けてよかった。
- ・大災害での情報伝達、指揮系統の難しさを痛感しました。
- ・緊急消防援助隊を派遣する上で、一番心配なことが災害現場に到着できるかどうかということが印象に残った。
- ・困まかせにはいけないと思います。
- ・質疑応答の時間があればさらに良かった。
- ・南海トラフを想定して消防のハード・ソフト両面での整備が急務だと考えます。
- ・消防団の死者が多い理由、団活動が地域に根ざしていたという説明が印象に残った。
- ・特殊勤務手当の話をしてもらいたかった。

4 惨事ストレス(青木対策官)

- ・ストレス惨事を起こさないよう、常日頃から心がける必要があると思った。

第二部

1 マジック

- ・テレビで見るより素晴らしい感じがした。スゲー!!
- ・現地の人が良く見えるよう、席を前の方に用意しておいた方が良かったのではないかな。
- ・なにより、現地の人たちと一緒に楽しめたことが良かった。

2 絆トーク

- ・生の声が聞けてよかった。もっと時間をかけて様々な関係者の声を聞いてもよかったです。
- ・当時の様子や活動内容を聞くことができ、本当に貴重な時間でした。
- ・普段の訓練の必要性、自分の命は自分で守るなどの思いが伝わってきた。

3 消防エクスサイズ

- ・ボテビルターに見とれてしまった。
- ・ハムストリングをしっかりと鍛えたいと思います。松戸のスター頑張ってください。
- ・地域の方々と同じ時間を共有できたことが嬉しい。特に肉体系。
- ・正しいトレーニングに励みます！もっとやりたかったです。
- ・消防エクササイズをもっと広げていきたいです！

4 金沢美咲ステージ

- ・とても可愛かった。ファンになってしまった。「花は咲く」はとても良かった。
- ・「雪んこ海峡」サイコーでした！CD買いました！
- ・地域住民の方々が大変に喜んでる姿が目に見えて、大変良かったと強く感じました。

5 栗田けんじステージ

- ・消防団の歌に感動した。地元でも紹介しようと思った。
- ・ものまね、消防団の歌、最高でした！CD買いました。
- ・現地の人々の笑い声がたたくと聞くと、笑いの力はすごいと感じました。
- ・夕食会まで参加してくれて嬉しかった。

被災地視察

1 消防めし

- ・震災から2年が経過するが、津波の爪あとが深く、復興には時間がかかる。
- ・「百聞は一見にしかず」だった。被災地の今を感じる事ができた。
- ・私の地元での「地震・津波」に対する意識の低さを痛感しました。
- ・漁協やホテルでのDVDを見たことが、生の声を聞けたのが良かった。
- ・自然の力は計り知れない事と先人の教えはちゃんと根拠があり、いくら世の中が近代化しても変わらないものである。
- ・現状から逃げず、防災を伝えていくとする姿に感動しました。
- ・被災地の状況を説明してくれた田老地区の方々に感謝です。
- ・テレビで見ただけがなかった私ほど、こが対岸の火事だと思っていたことを恥ずかしく思った。
- ・防潮堤があるからと、ハード面を信用し避難が遅かった人達が犠牲になられたと聞き残念に思った。
- ・ソフト面とハード面の両立がないと被災につながることを理解させられたい。

2 開催日程

- ・盛岡発でなく、宮古発なら見学が多かったです。移動時間をもっと減らしたい。
- ・被災地視察と各種報告を逆にして、現地の状況を把握したうえで話を聞けると良かった。
- ・被災者との交流をもっと工夫できなかったらいいかな。
- ・被災地に復興支援のために、もっと土産物店に行かされた。
- ・NPO活動を通して復興を支援している団体等を視察の中に入れてほしい。

3 その他

- ・現地に入らないと分からないことが多く、大変貴重な体験ができたと思います。今後ぜひこの活動を推進してほしいです。
- ・現地に足を運ぶ事で、住民の皆さんが少しでも元気になってくれればと感じています。
- ・現地の方とおしゃべりできる時間があれば、なお良かったと思います。
- ・もっと地元の、あらゆる本場の声をもっともっと聞きたかったです。
- ・被災地の方々に全国の消防は震災時から今まで、これからもずっと皆さんと一緒にいるという強いメッセージを残せたと思います。
- ・今後の支援はどのような形で行っていくのであろうか。
- ・現場で活動した自衛隊、警察、海保の方の話を聞きたい。

4 消防めし

- ・タコライス最高でした！美味しかったです。
- ・避難所の皆さんも喜んで食べてくれたのが良かった。

集会全体をおおして

- ・タコ、入っていないですね。
- ・消防めしを受け取ったおじちゃん、おばちゃん笑顔が嬉しかった。
- ・盛岡発でなく、宮古発なら見学が多かったです。移動時間をもっと減らしたい。
- ・被災地視察と各種報告を逆にして、現地の状況を把握したうえで話を聞けると良かった。
- ・被災者との交流をもっと工夫できなかったらいいかな。
- ・被災地に復興支援のために、もっと土産物店に行かされた。
- ・NPO活動を通して復興を支援している団体等を視察の中に入れてほしい。
- ・現地に入らないと分からないことが多く、大変貴重な体験ができたと思います。今後ぜひこの活動を推進してほしいです。
- ・現地に足を運ぶ事で、住民の皆さんが少しでも元気になってくれればと感じています。
- ・現地の方とおしゃべりできる時間があれば、なお良かったと思います。
- ・もっと地元の、あらゆる本場の声をもっともっと聞きたかったです。
- ・被災地の方々に全国の消防は震災時から今まで、これからもずっと皆さんと一緒にいるという強いメッセージを残せたと思います。
- ・今後の支援はどのような形で行っていくのであろうか。
- ・現場で活動した自衛隊、警察、海保の方の話を聞きたい。

新規単協、続々結成中!!
次号は徳之島消協さん(鹿児島)、
松阪消協さん(三重)をご紹介します!

※「いちやりばちょうで」とは、沖縄の言葉で「一度会ったらみな兄弟」という意味です。



志摩消防職員協議会

始まりは人との出会い。
津波警報発令時の処遇に
疑問を抱き、組織化に至る

平成24年10月6日三重県で8番目となる志摩市消防職員協議会が結成されました。
 西井会長は「始まりは人との出会い」と語り、一昨年の東日本大震災発生時に三重県沿岸部でも津波警報が発令された時の処遇等に異動してきた部署の係長と協議会について意気投合し、消防職員協議会を立ち上げる話に至った経過を語り、まずは会員の勧誘を始めて、県消協や三

重県本部、志摩市職労等と連携し勉強を重ねてきました。職員が働き甲斐のある活気に満ちた職場環境を作り、より良い消防行政を地域住民に提供できるような活動を展開していきたいと力強く語りました。
 (三重県消協広報誌「スクラム」より抜粋)



知内消防研究会

全国の仲間が問題解決に
向け取り組んでいること
を知り、立ち上がる

全国消防職員協議会の皆様こんにちは。
 私たちは、2013年3月25日に北海道地区の57番目の単協として全消協の仲間入りをさせて頂きました「知内消防研究会」と申します。

私たちは、北海道の最南端に位置する、東に函館市、西に北海道唯一の城下町・松前町との中間地点に位置しております。消防体制は構成広域4町(松前町・福島町・知内町・木古内町)の広域消防本部で、1本部・4署・2出張所で運用されております。



「全国の消防職員の仲間が同じ問題について、情報の共有、研究の場を持ち問題解決に向けて取り組んでいる協議会組織がある」との働きかけがありました。今の現状(未設立)では外部との情報交換をする場もないような閉鎖的な環境を改

また知内町といえば、演歌の大御所「北島三郎のふるさと」として有名です。
 さて、私たち「知内消防研究会」の結成された大きな理由に、まず函館市から松前町までの沿線で、各単協が既に発足しておりましたが、私たちの所属する知内町だけは未設立の状態でありました。また数年にわたり北海道消防職員協議会及び地区ブロック協議会・各単協のご支援により研修会等への参加依頼があり参加して参りました。参加をしての感想が、今までの自分たちが全くの無知状態での勤務状態の体制を知ることができ、また、

全国消防職員協議会
第37回定期総会
2013年8月25日(日) 10時~17時
会場：大阪国際会議場

全消協ホームページもご覧ください
<http://zensyokyo.jp/>
 随時、最新ニュースを更新!

善したいとの思いから数人の仲間たちで研究会を結成いたしました。一人ひとりの小さな声では届かないことも、同じ問題を抱えた多くの仲間が集まれば少なからず結果に繋がると思っています。
 「消防職員の団結権のあり方に関する問題が」大きく動き始めようとしている現在、その結果を注視し民主的で明るい消防職場実現に向けこれからも頑張ります。
 結びに、消防職員は全体の奉仕者となり地域行事へ積極的参加はもちろん、地域住民の生命身体・財産を確保することを最大の目的であることを念頭に置き、心技体をレベルアップさせるための研究会活動としていきますので今後ともよろしくお願ひ致します。
 (知内消防研究会 会長 木元昌弘)